

## 1. 集計結果

### ○回答数

- ・保護者による評価 24人（26人中）
- ・職員による自己評価 13人（14人中） \*1人、病欠中

### ○実施期間

- ・2018年12月17日～28日

### ○評価の数値状況

- \*別紙を参照

## 2. 分析・討議

### ○保護者による評価

- ・「活動の場所の面積が適切であるか」は、「はい」が20人ある。ただし、「わからない」が3人、「いいえ」が1人ある。施設は、20人定員であるため、指導訓練室は80㎡あり、基準面積を満たしている。それ以外に廊下や玄関スペースもあって、他の事業所と比べ、決して狭いわけではない。「体の大きな子が走ったりしているのを見ると、広いといいなという希望はある」という意見があるように、活発に動き回る子どもが多いので、（もっと広かったらいい）という希望があるのだろう。
- ・「指導員の配置人数は適切であるか」は、「はい」が23人ある。「十分すぎるくらい」「手厚く、安心でき、子どもの個性が活かされた活動」という意見があるように評価されている。ただし、「いいえ」が1人あるのは、マンツーマンで対応してほしいと願う、障害の重い子どもの保護者からの意見だろう。
- ・「子どもにとって危険がともなうようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」は、「はい」が22人ある。ただし、「わからない」が2人あるのは、施設内を、安全かどうかという視点で見たことがないからだろう。
- ・「虐待と思われるようなことがなくて、子どもを安心して通わせられるか」は、「はい」が23人ある。虐待などの心配がないと評価されていることがうかがえる。
- ・「火災や地震、感染症などの対策がなされているか」は、「はい」が21人ある。ただし、「わからない」が3人にある。防火防災訓練や、感染症の研修会は実施していることを、会報などをつうじて知らせているものの、伝わっていない人もいるからだろう。
- ・「子どもの育ちの状況を確認、保護者との面談もしながら、個別支援計画書が半年に1回は見直し、作成されているか」は、「はい」が24人（全員）ある。「スタッフみんなで子どもの成長を見守ってもらえている」「丁寧に教えてもらっている」という意見があるように評価されている。
- ・「子どもに応じた活動が作り出されるとともに、屋内や屋外の活動、長期休業中の活動などが工夫されているか」は、「はい」が21人ある。ただし、「わからない」が3人ある。屋外の活動や、夏休み活動でのプール活動、合宿などにも取り組んでいるものの、猛暑日の外出の差し控えや、プールの改装工事での利用不可などがあったからだろう。

- ・「子どもは活動を楽しみに参加しているか」は、「配置」が23人ある。「活動に満足しているか」は、「はい」が24人（全員）ある。「ゆうやけが大好き」「とても楽しみにしている」という意見もあるように評価されている。
- ・「活動に満足しているか」は、「はい」が22人ある。ただし、「わからない」が1人、「いいえ」が1人ある。マンツーマンで対応してほしいと願う、障害の重い子どもの保護者からの意見だろう。
- ・「保護者の思いや願いを汲み取るため、懇切に対応されているか」「保護者と面談を行なうなどして、子どもについての状況や意見などを聞き取られているか」「保護者に子どもや活動の状況を報告する機会がつけられているか」「苦情などの意見を寄せたときは、懇切に対応され、改善策をすみやかに伝えられているか」「会報などが定期的に作られて、活動の状況を知らせたり、保護者の交流を促したりされているか」「親子行事、きょうだいの会など、保護者や家族が交流できる機会が工夫されているか」「保護者が自主的につくる父母会に協力するなどして、保護者同士のつながりをつくろうとされているか」は、「はい」が23人ある。「相談したいことは、面談、連絡ノートで対応してもらっている」「会報も丁寧に作られている」「すばらしい」「行事を企画してもらって助かる」「忙しいのに父母会にも参加してもらえ、ありがたい」という意見があるように評価されている。

#### ○職員による自己評価

- ・38の項目で、「はい」が14人（全員）または13人ある。全体として、高い自己評価となっている。
- ・「子どもの“問題行動”に出会うとき、わが身に引き寄せるなどして、その理由を共感的に理解しようとしているか」は、「はい」が12人ある。ただし、「わからない」が1人、「いいえ」が1人ある。この質問は、子ども理解を自己反省的に振り返ることが求められるため、回答が難しい。「わからない」「いいえ」と答えることで、自らを反省的に振り返ることが重要と考えられる。
- ・「大人の目の育ちに応じてしか子どもは見えてこないという、自省的な意識をもって、子どもを理解しようとしているか」は、「はい」が8人がある。ただし、「わからない」が6人ある。この質問も、子ども理解を自己反省的に振り返るとともに、自分自身の成長を見つめなければならないため、回答が難しい。「わからない」と答えることで、自らを振り返る意識を持つことが重要と考えられる。
- ・「子どもの育ちの状況を確認、保護者の意見も聞いて、個別支援計画書を半年に1回は見直し、作成しているか」は、「はい」が11人ある。ただし、「わからない」が3人ある。非常勤職員の場合は、個別支援計画書の作成に関わらない人もいるからだろう。
- ・「子ども理解や実践についての、外部の学習会や講座に参加して、見識を高めようとしているか」は、「はい」が8人ある。ただし、「わからない」が1人、「いいえ」が5人ある。外部の研修会への参加は、非常勤職員の場合は、本人の事情（家庭などの都合）でなかなかできない人もいることの表われだろう。
- ・「学校と支援会議などを行なって、子どもについて意見の交換を行なっているか」「学校入学前や卒業後の諸機関と、必要に応じて連絡を取っているか」は、「はい」が12人ある。ただし、「わからない」が2人ある。非常勤職員の場合は、実情を知らない人もいるからだろう。

### 3. 改善目標

#### ○保護者による評価

- ・ほとんどが、高い評価となっている。いっそう努力を重ねたい。
- ・活動場所の面積は、基準を満たしており、他の事業所と比べて決して狭いわけではない。こうしたことを、機会をとらえて伝えていきたい
- ・指導員の配置人数は、財政的に厳しい中でも、障害の重い子どもはマンツーマンの体制を取っていて、基準よりもかなり手厚い。とは言え、手厚い対応の必要な子どもには、きめ細かい配慮をいっそうしていきたい。こうしたことを、機会をとらえて伝えていきたい。
- ・防火防災対策、感染症対策などは、さらに留意したい。実施している状況を、機会をとらえて伝えていきたい。

#### ○職員による自己評価

- ・ほとんどが、高い評価となっている。内部の研修会などをつうじ、子ども理解などを学び合っていることの反映だと考えられる。
- ・内部の研修会の内容をさらに充実していきたい。主体的な学びとするため、講師の話を聴くだけではなくて、集団討議の機会をつくることを重視したい。
- ・外部の研修会に非常勤職員が参加することは、本人の事情があり、簡単なことではないものの、機会をとらえて、参加をいっそう呼びかけたい。

### 4. 公表方法

○保護者・職員への文書の配布（2019年1月末より）

○ホームページへの掲載（2019年1月末より）